

1 森林資源の現状

- ◇ 本県の森林面積は34万7千haで県土の78%を占め、国有林5千ha(1%)、県有林15万4千ha(44%)、民有林18万9千ha(55%)から構成されている。
- ◇ 森林資源の構成は、人工林15万3千ha、天然林17万2千ha、その他2万2千ha。森林面積の44%を占める人工林の年齢構成は、X年齢以上(46年生以上)が63%であり、伐期に達した森林の占める割合が増加している。

森林面積と森林比率

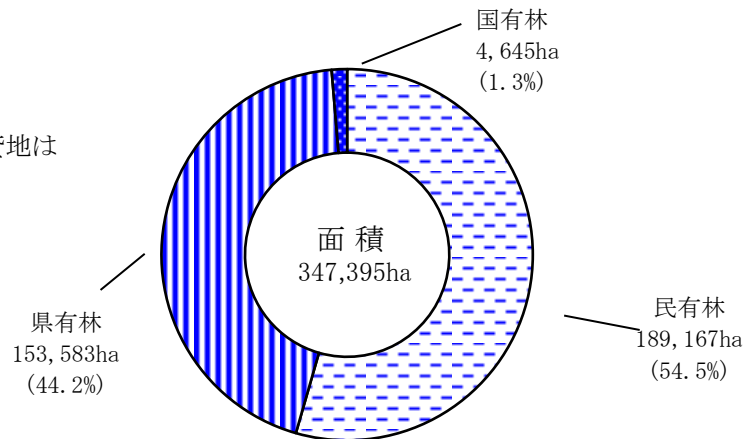
全 国		山 梨
37,796 千ha	総 面 積	446,537 ha
25,081 千ha	森 林 面 積	347,395 ha
66.4 %	森 林 比 率	77.8 %

資料： 全国総面積は、国土地理院「平成25年全国都道府県市区町村別面積調」
 全国森林面積は、2014「森林・林業統計要覧」（林野庁編）
 山梨県総面積は、「山梨県統計年鑑」（平成25年刊行）
 山梨県森林面積は、森林整備課の業務資料（国有林含む）

所有形態別森林面積と蓄積

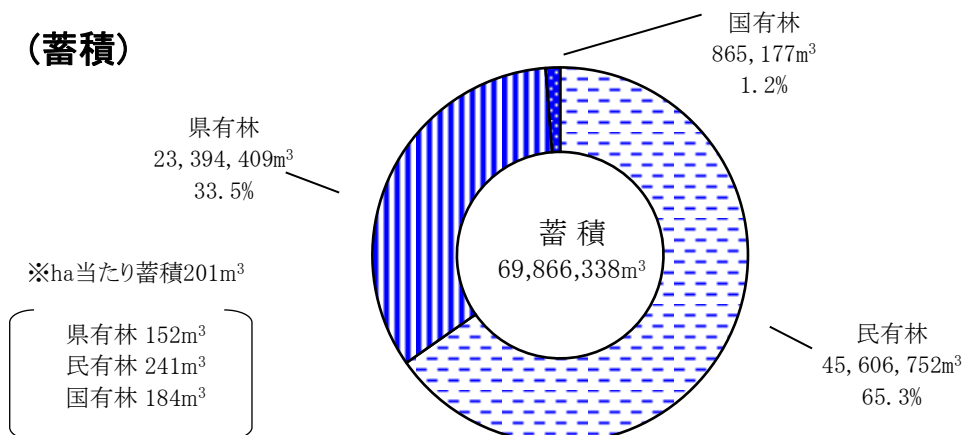
(面積)

※県有林植樹用貸地は
民有林に含む。



(蓄積)

※ha当たり蓄積201m³



県有林 152m³
 民有林 241m³
 国有林 184m³

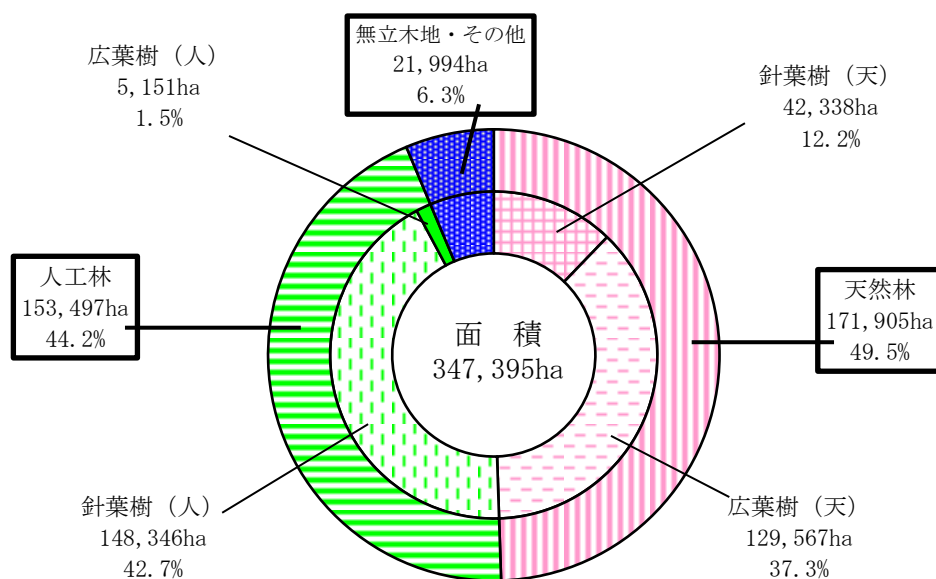
人工林面積と人工林率

全 国		山 梨
10,289 千ha	人 工 林 面 積	153,497 ha
41.0% %	人 工 林 率	44.2 %

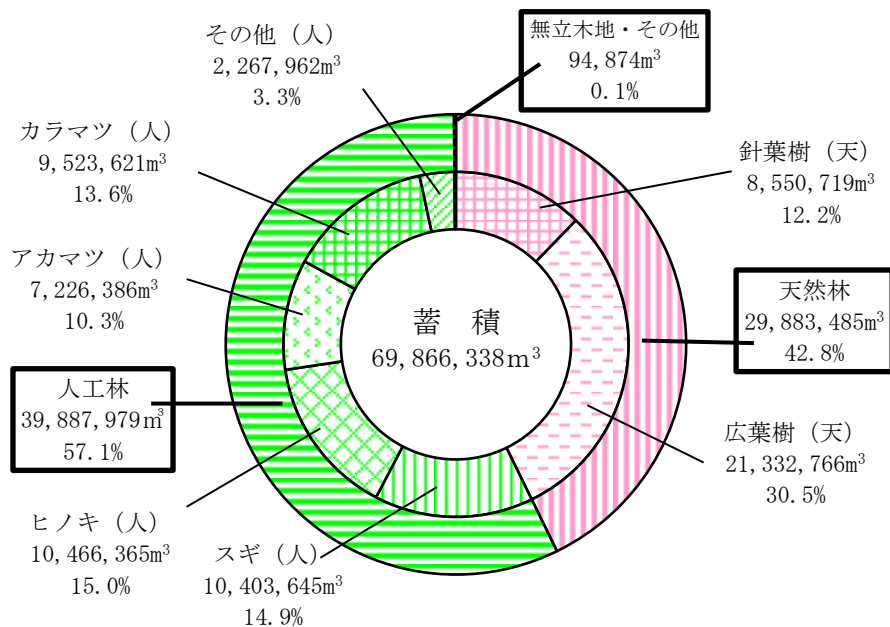
資料：全国の人工林面積は、2014「森林・林業統計要覧」（林野庁編）
山梨県の人工林面積は、森林整備課の業務資料（国有林含む）

林種別・樹種別面積と蓄積

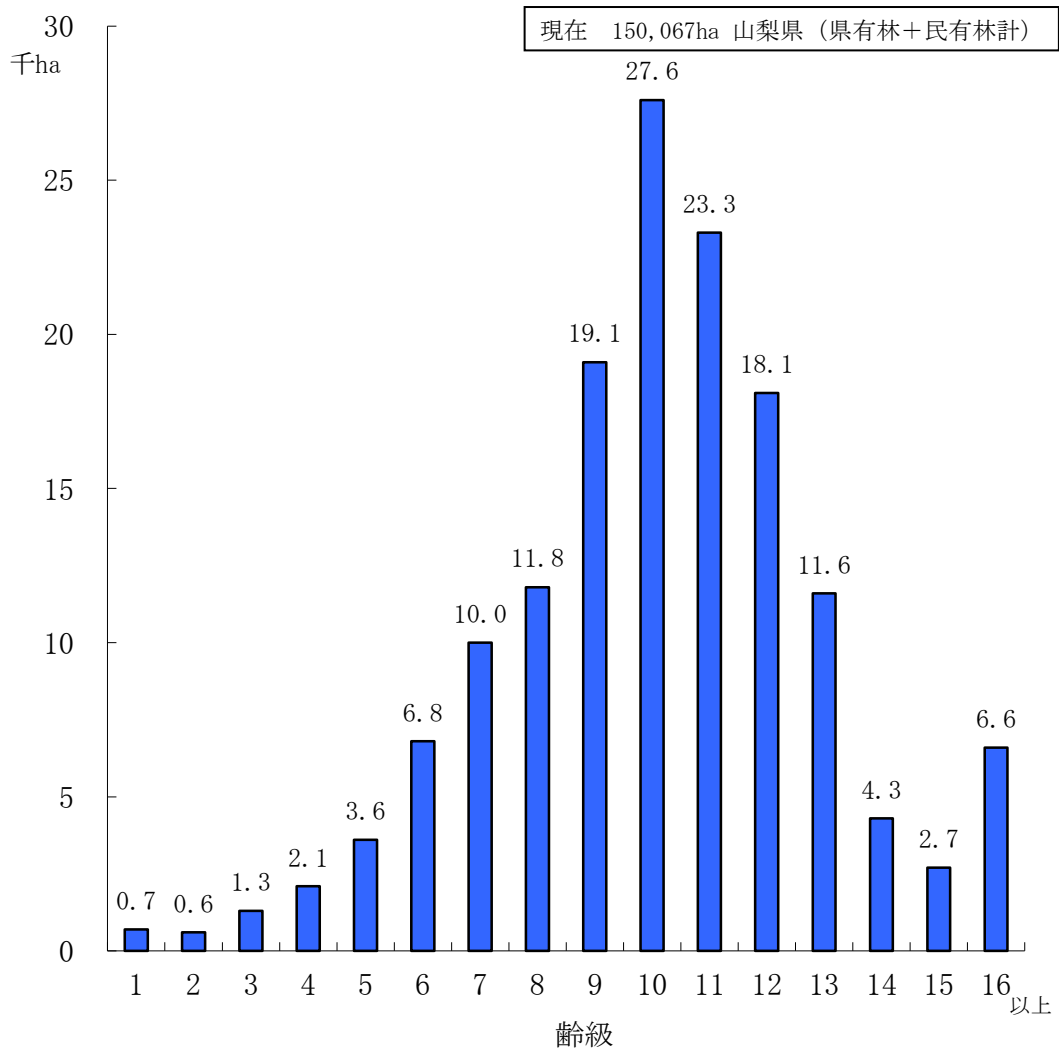
(面積)



(蓄積)



齡級別人工林面積



構成比

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16以上
山梨県	0	0	1	1	2	5	7	8	13	18	16	12	8	3	2	4
全国	1	1	2	2	3	6	8	11	15	16	14	9	3	2	2	5

構成比(山梨県)

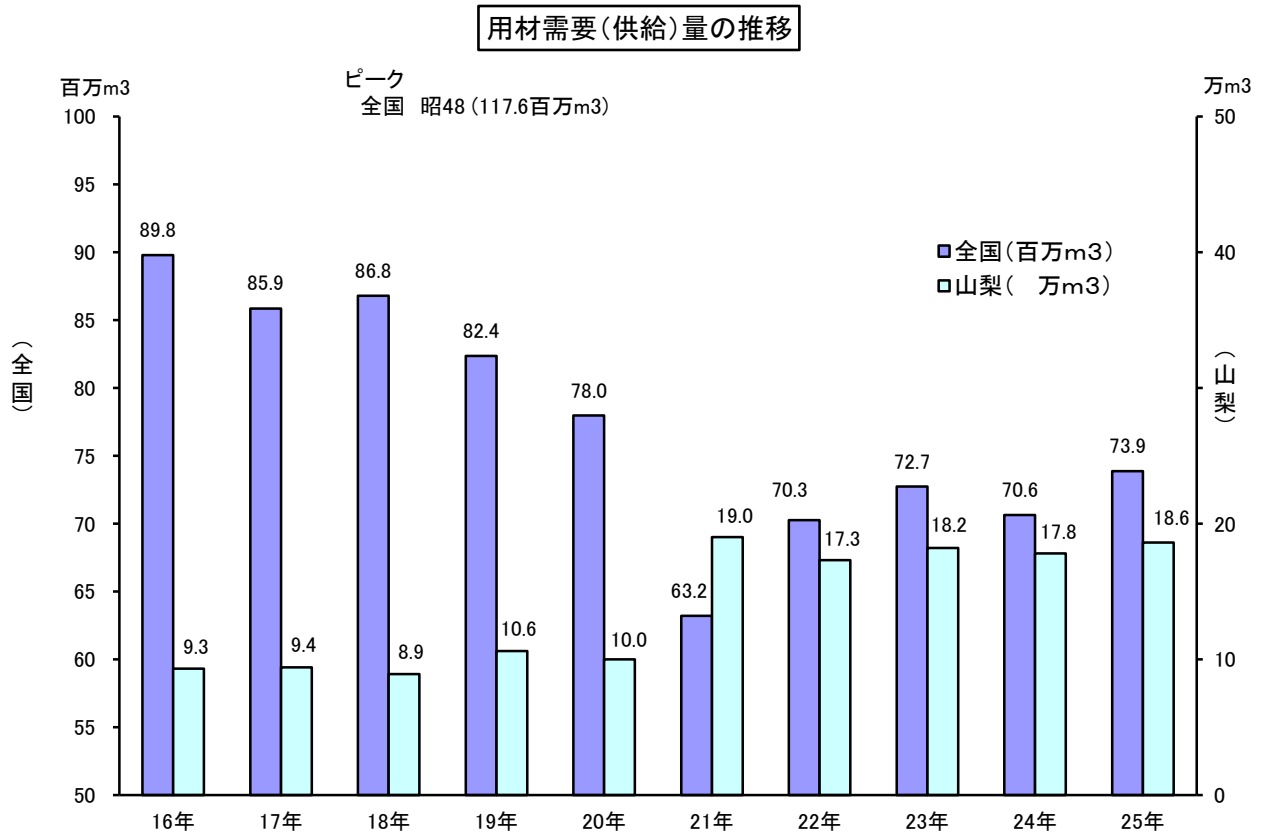
Ⅲ齡級以下 (15年生以下)	2%
Ⅳ～Ⅸ齡級 (16～45年生)	36%
Ⅹ齡級以上 (46年生以上)	63%

資料：全国は、2014「森林・林業統計要覧」（林野庁編）
山梨県は、森林整備課の業務資料（国有林除く）

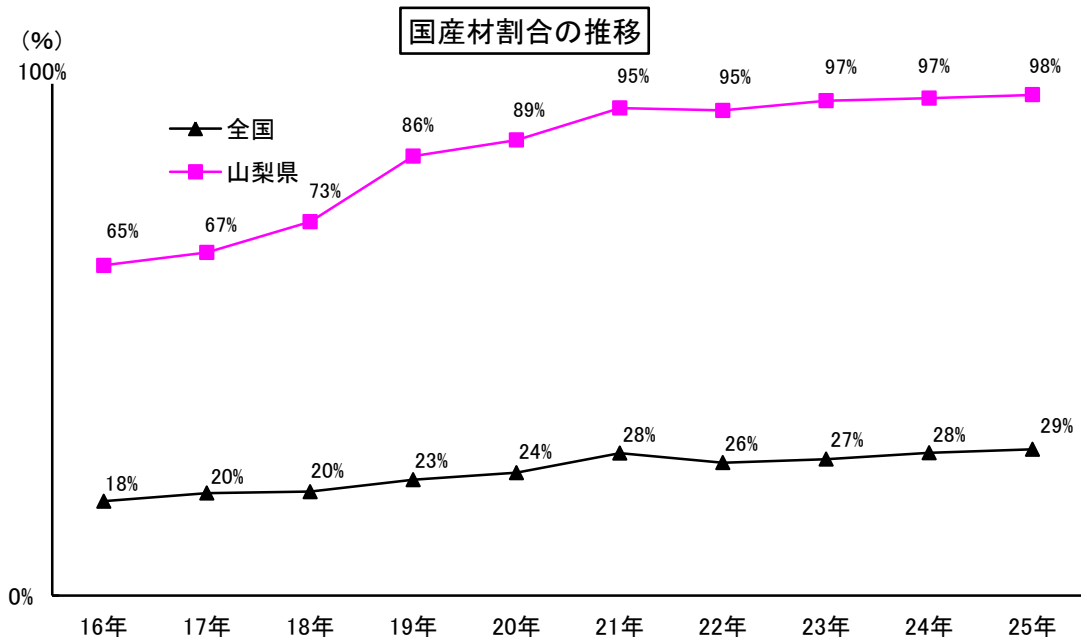
齡級：森林の林齡を5年の幅でくくった単位。人工林は、苗木を植栽した年を1年生とし、1～5年生をⅠ齡級、6～10年生をⅡ齡級と数える。

2 木材需給量と材価

- ◇ 本県の木材（素材）需給量は、増加傾向に転じ、平成25年は186千 m^3 となっている。用途別内訳で、木材チップ、県外移出が増加したもので、逆に製材用途は減少している。
- ◇ 本県の製材用素材供給量に占める国産材の割合は増加の傾向にあり、また低下傾向が続いていた国産丸太価格は平成25年に上昇している。

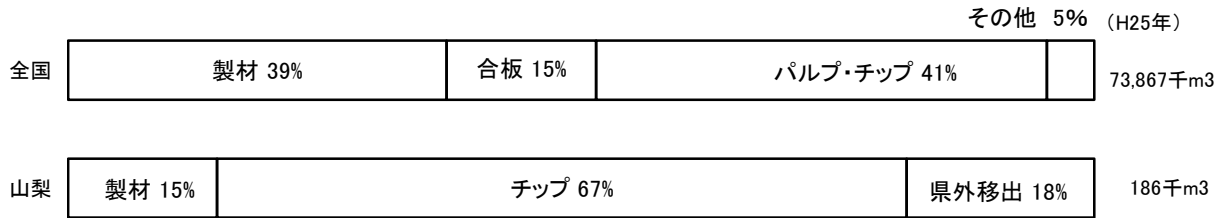


注:需給量には、製材品、木材パルプ、合板、薪炭材等の丸太以外の形態で輸入されたものについて、丸太材積に換算してカウントしている。

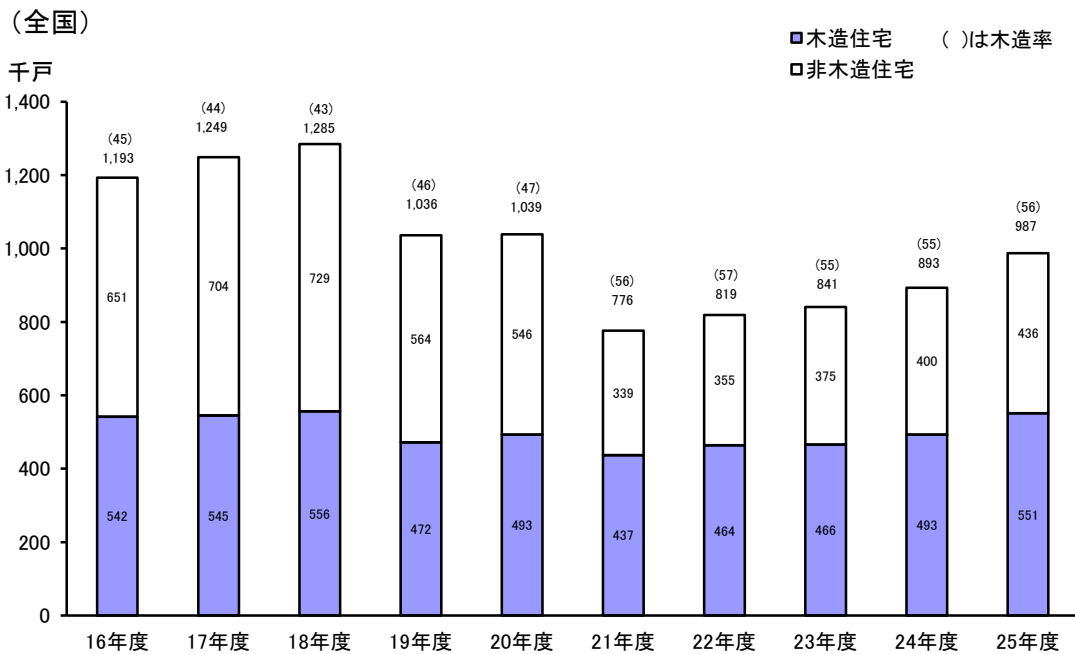
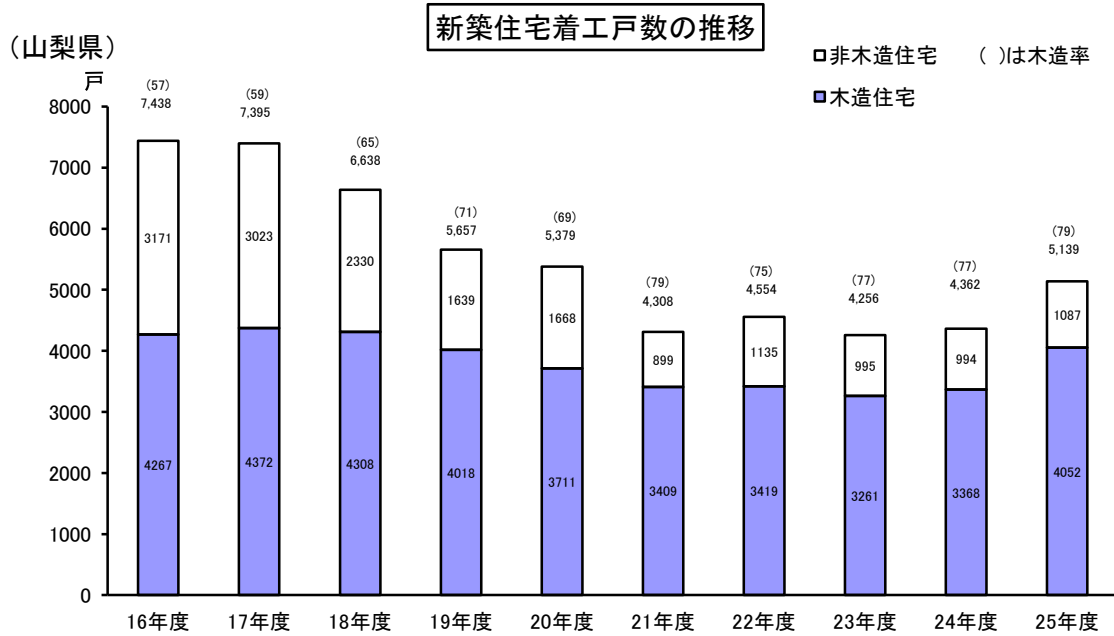


資料:主要木材の需給見通し(林野庁)

用途別需要量の割合



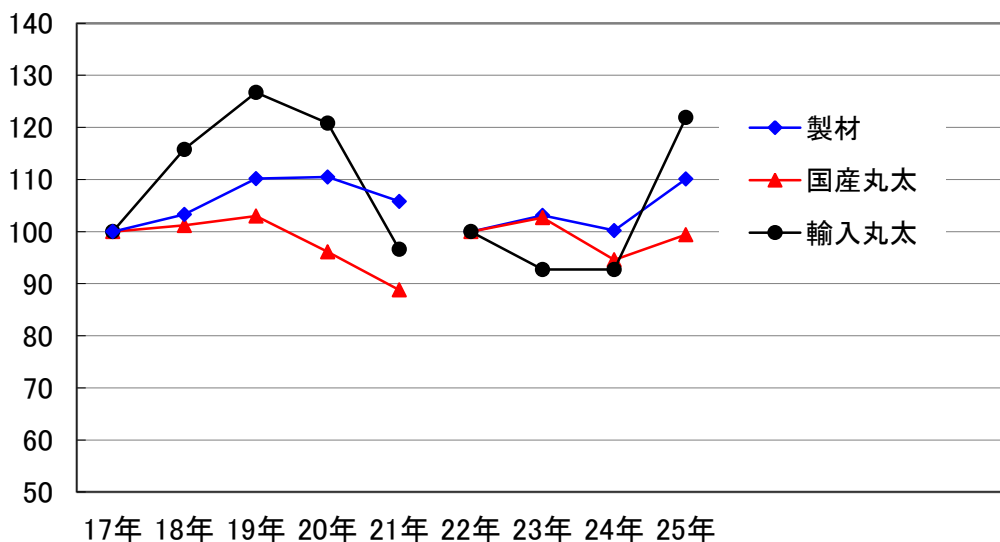
資料: 主要木材の需給見通し(林野庁)



資料: 国土交通省 住宅着工統計

木材価格指数の推移 (全国)

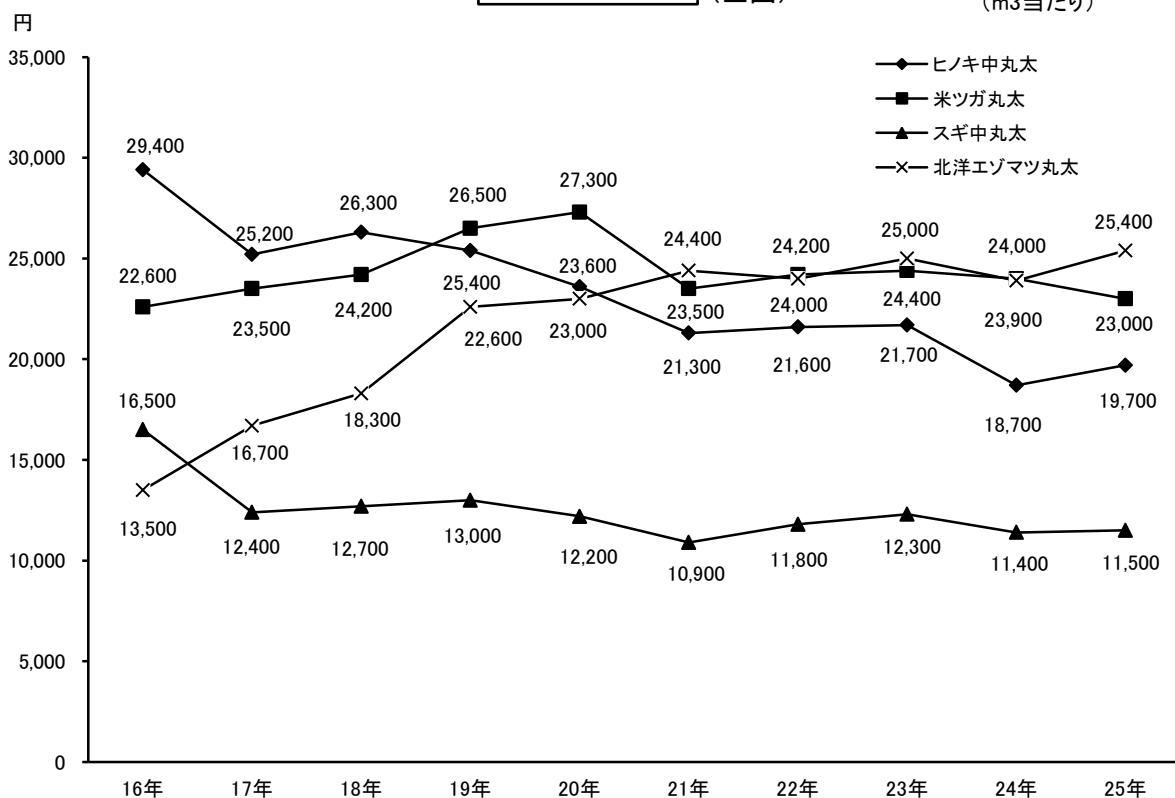
(平成22年平均=100)(平成21年までの年平均値は、平成17年平均=100で算出)



※出典元の国内企業物価指数、輸入企業物価指数が、H17、H22をそれぞれ100として算出しているため、H21-H22間のデータは連動しない。

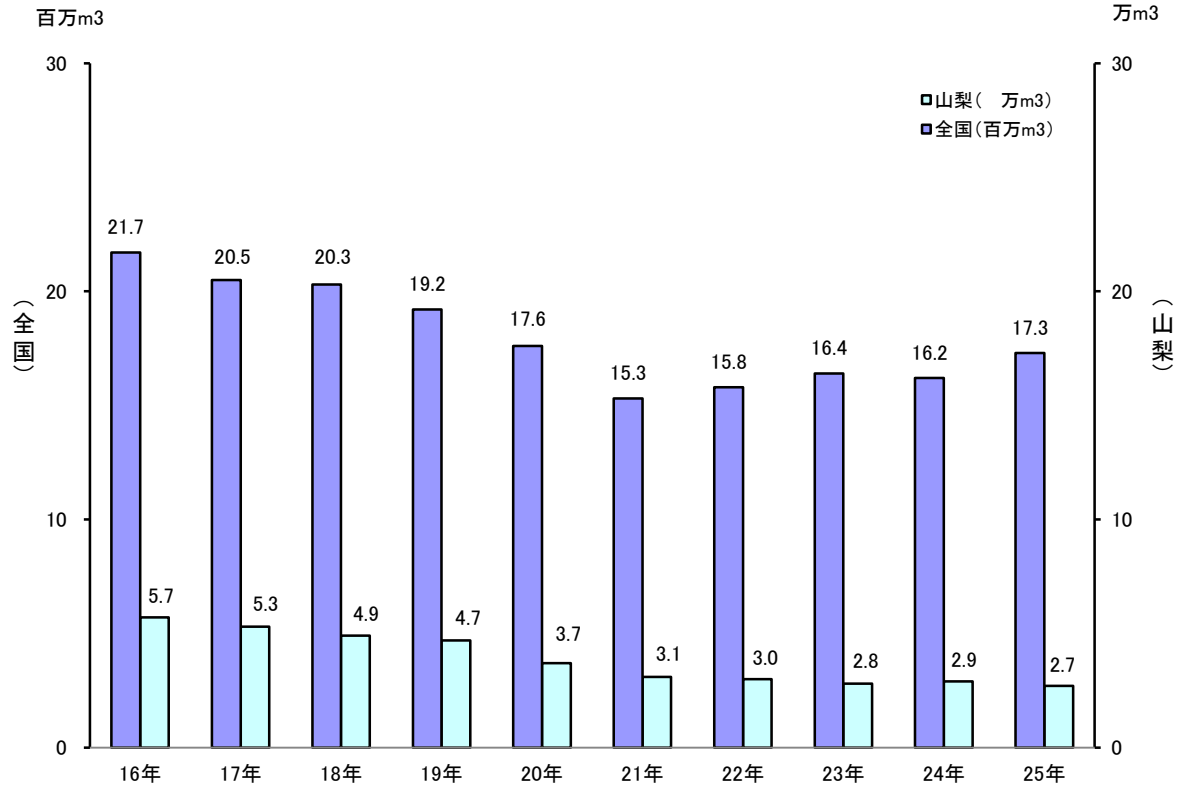
丸太価格の推移 (全国)

(m3当たり)

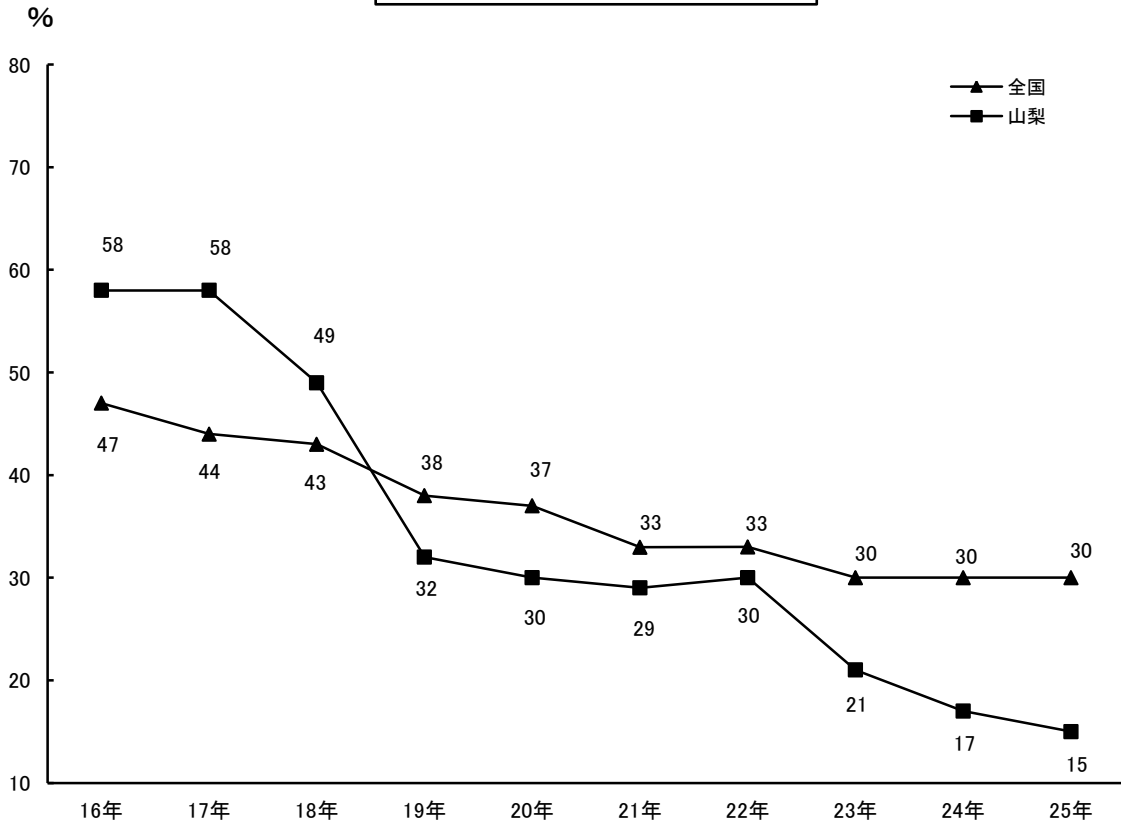


資料:「木材情報」(財)日本木材総合情報センター
19年から北洋エゾマツ丸太については、調査対象地域が変更されたため、それ以前の数値とは連続しない

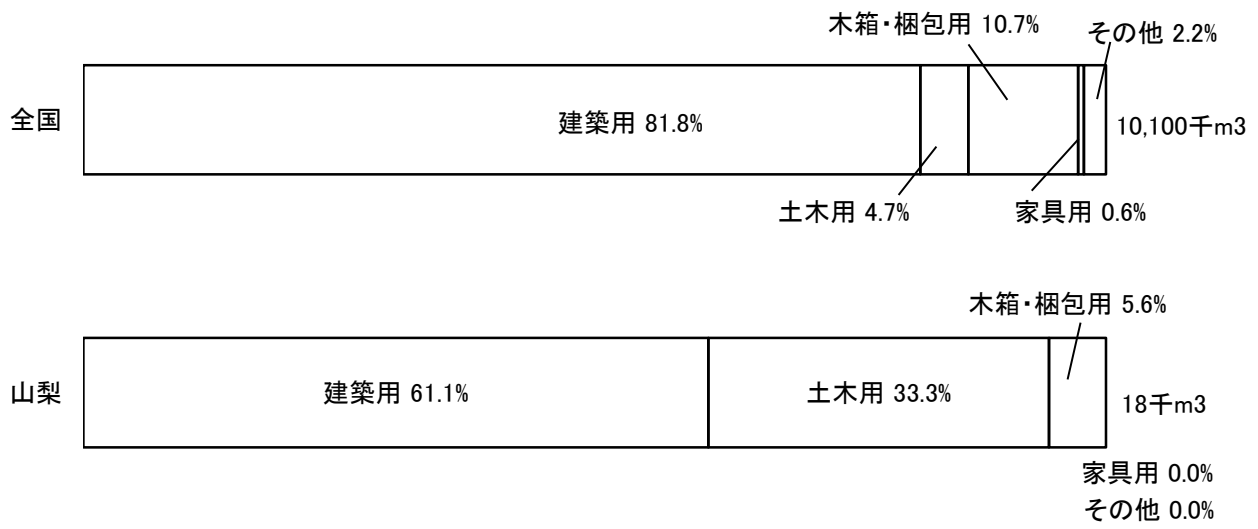
製材用素材の入荷量の推移



製材用素材の外材依存率の推移

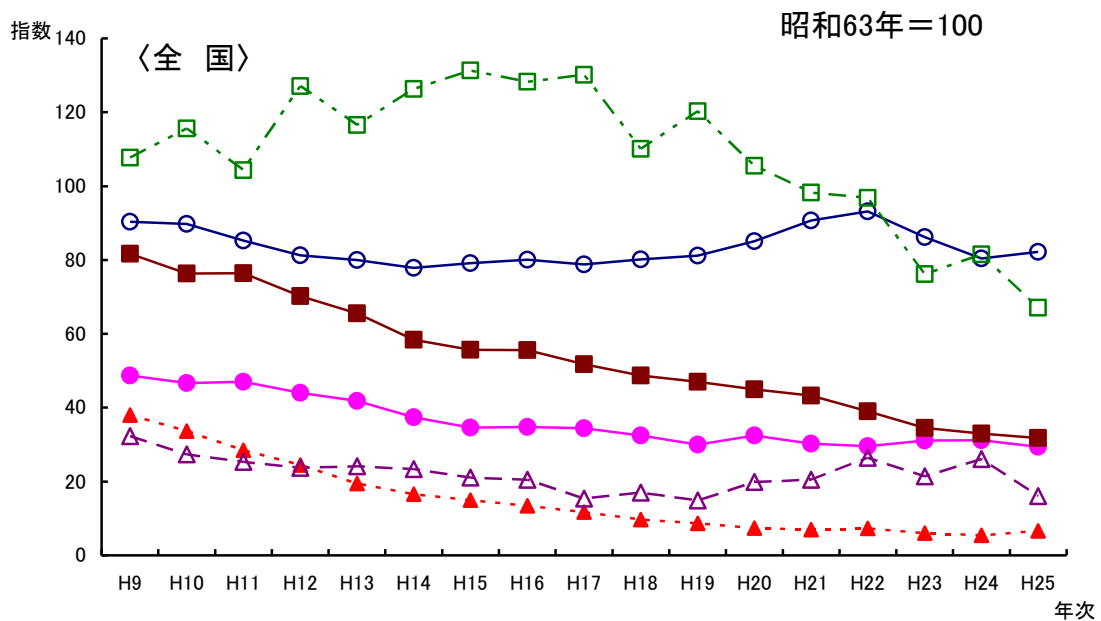
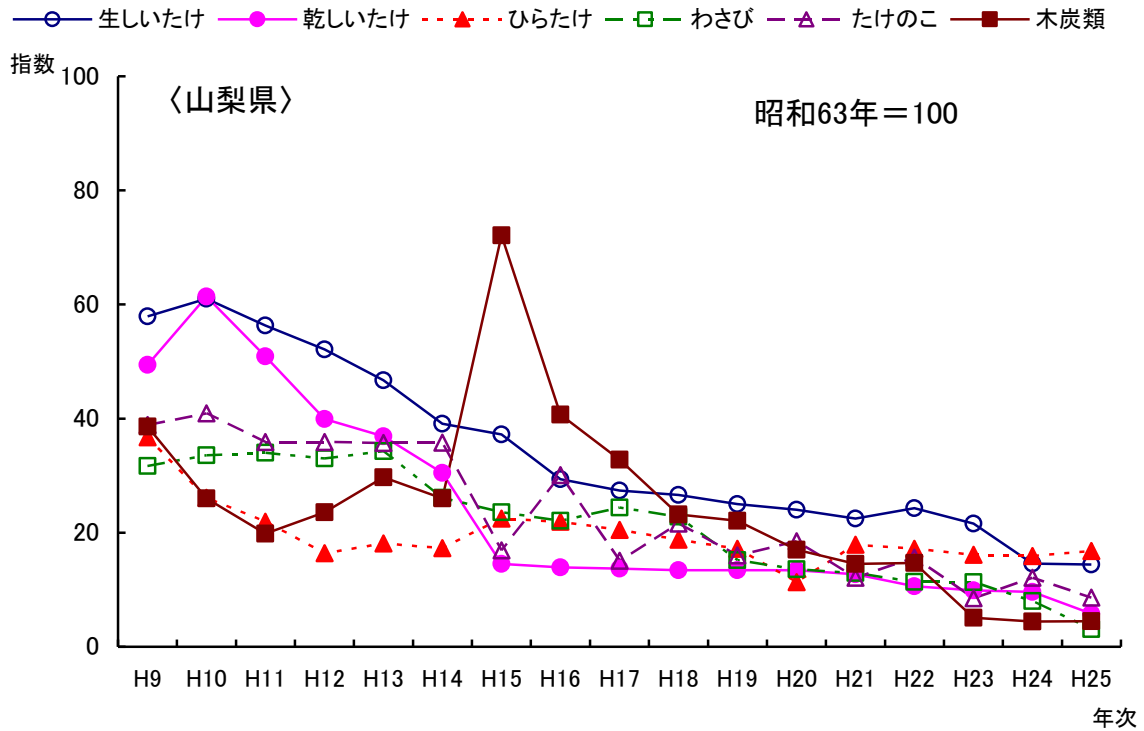


製材品の用途別出荷量の割合



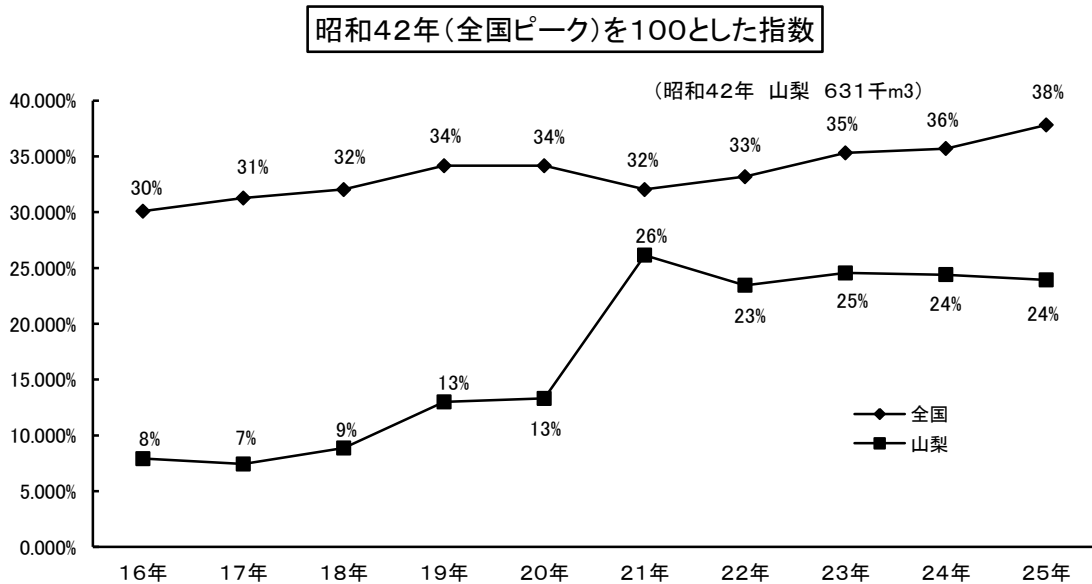
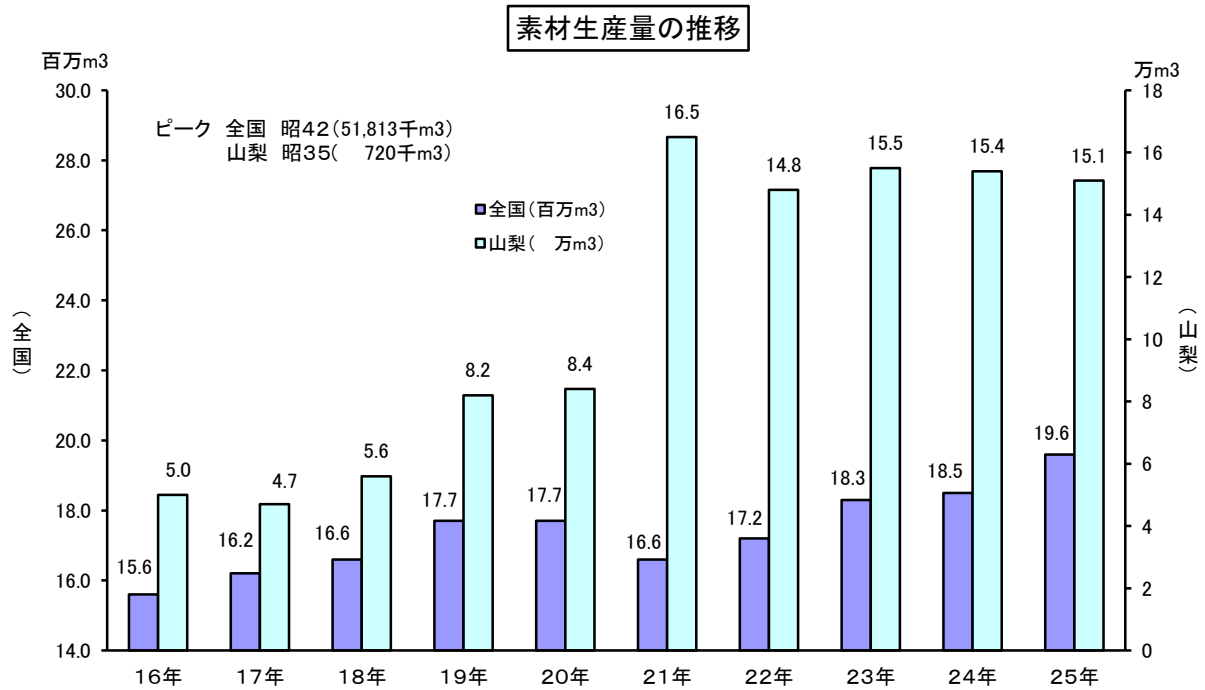
3 主な特用林産物の生産量（指数）の推移

- ◇ <山梨県> 農林家の短期収入源として重要な地位を占めている本県の子な特用林産物の生産量は、生産者の高齢化、安価な輸入品の増加などの影響を受け、漸減の傾向が続いている。
- ◇ <全国> 乾燥しいたけ及びびたけのこの生産量は、概ね横ばいであるものの、その他の特用林産物の生産量は減少傾向が続いている。



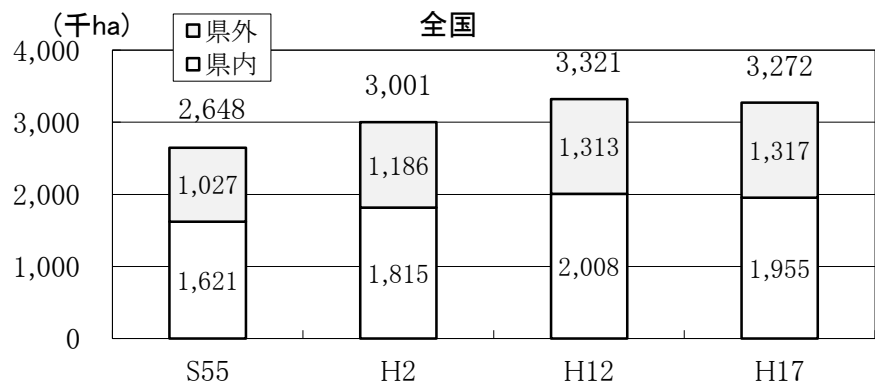
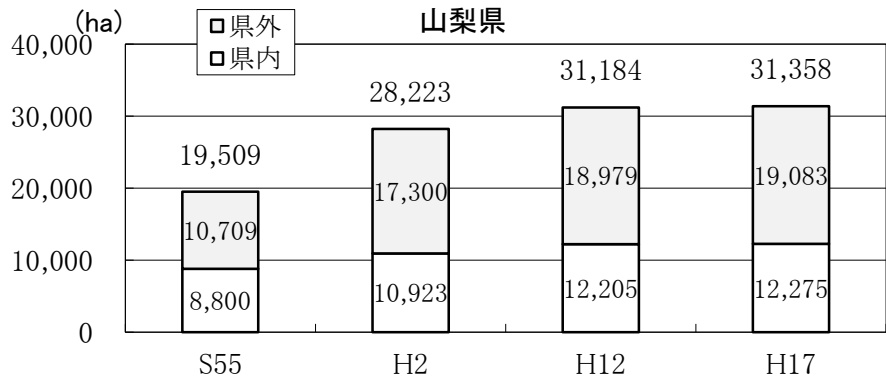
4 林業生産活動の動向

- ◇ 低迷していた素材生産量は、人工林資源の充実などにより持ち直してきており、大幅に増加した平成21年度以降、横ばいが続いており、本県の造林面積についても漸増傾向を示している。
- ◇ 林業就業者の動向を国勢調査でみると、長期的に減少傾向で推移し、全産業と比べて高い高齢化率を示しているが、35歳未満の若年者の割合は上昇傾向で推移している。



(参考)山梨ピーク(720千m³)時に対する25年次指数=21

不在村者森林所有面積の推移



資料：農林水産省「世界農林業センサス」（1980, 1990, 2000）「農林業センサス」（2005）
 ※2010年度調査から項目除外

(参考)

林家数の推移

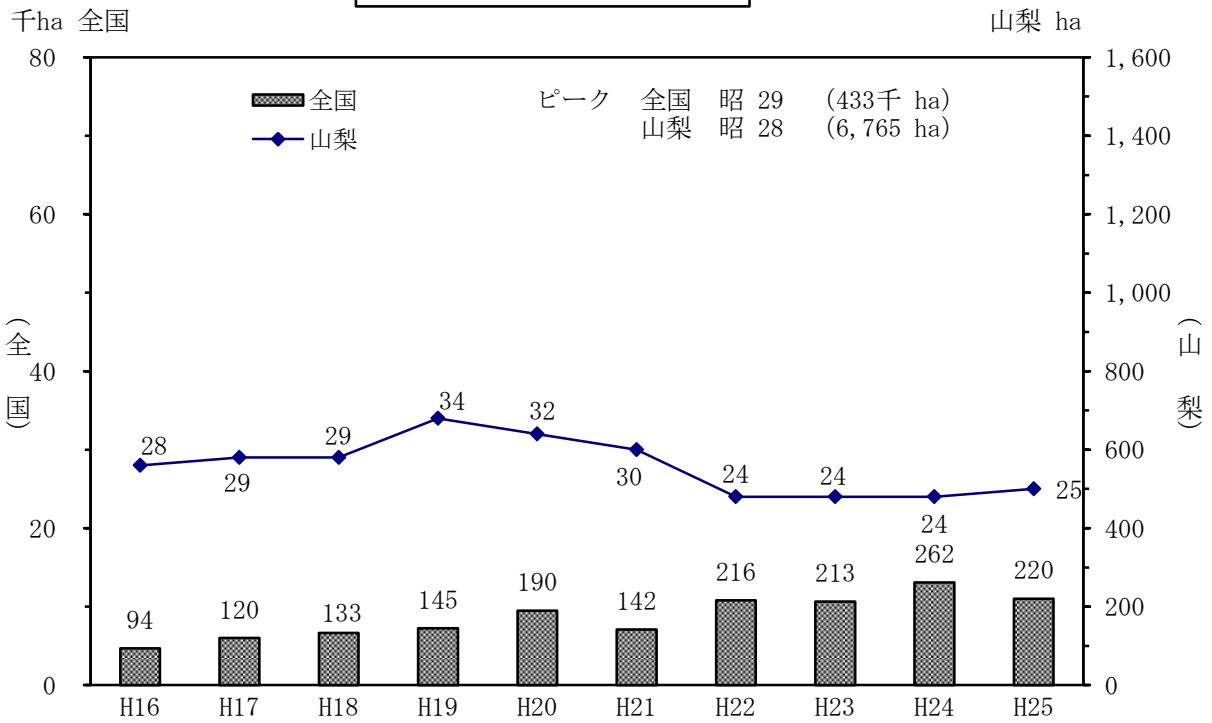
全 国			山 梨	
2,531	千戸	昭和55年	25,521	戸
2,509	千戸	平成2年	24,074	戸
1,019	千戸	平成12年	9,812	戸
920	千戸	平成17年	9,324	戸
907	千戸	平成22年	9,128	戸

資料：農林水産省「世界農林業センサス」（1980, 1990, 2000）「農林業センサス」（2005, 2010）

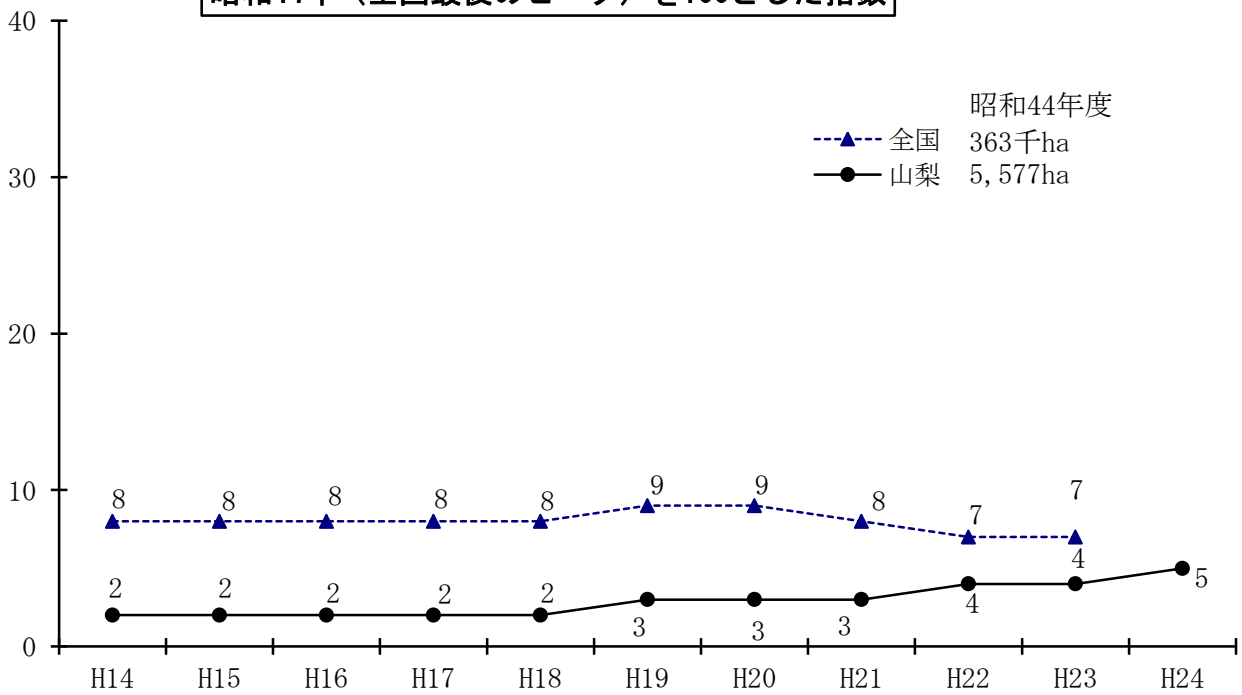
林 家

林家とは世帯である林業事業体
 ・（昭和55年, 平成2年）・・・ 保有山林面積が10a以上の世帯
 ・（平成12年, 平成17年, 平成22年）・・・ 保有山林面積が1ha以上の世帯

造林面積（単層林）の推移



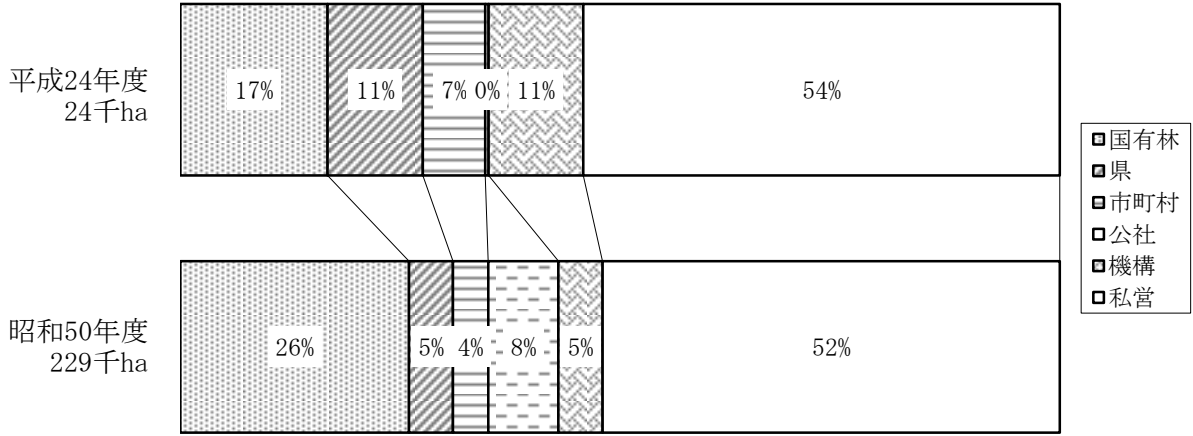
昭和44年（全国最後のピーク）を100とした指数



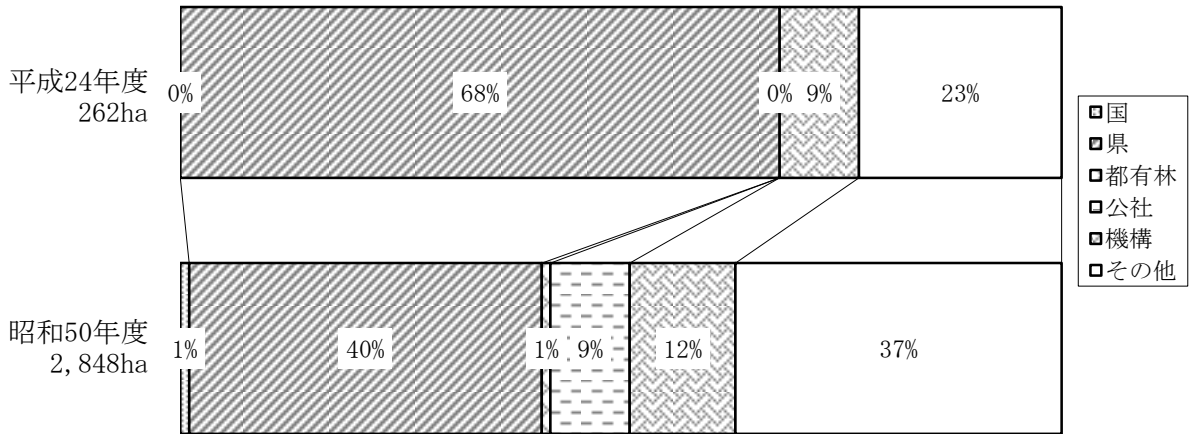
資料：全国のデータは、「森林・林業統計要覧（林野庁編）」より

施行主体別造林比率

全 国



山梨県



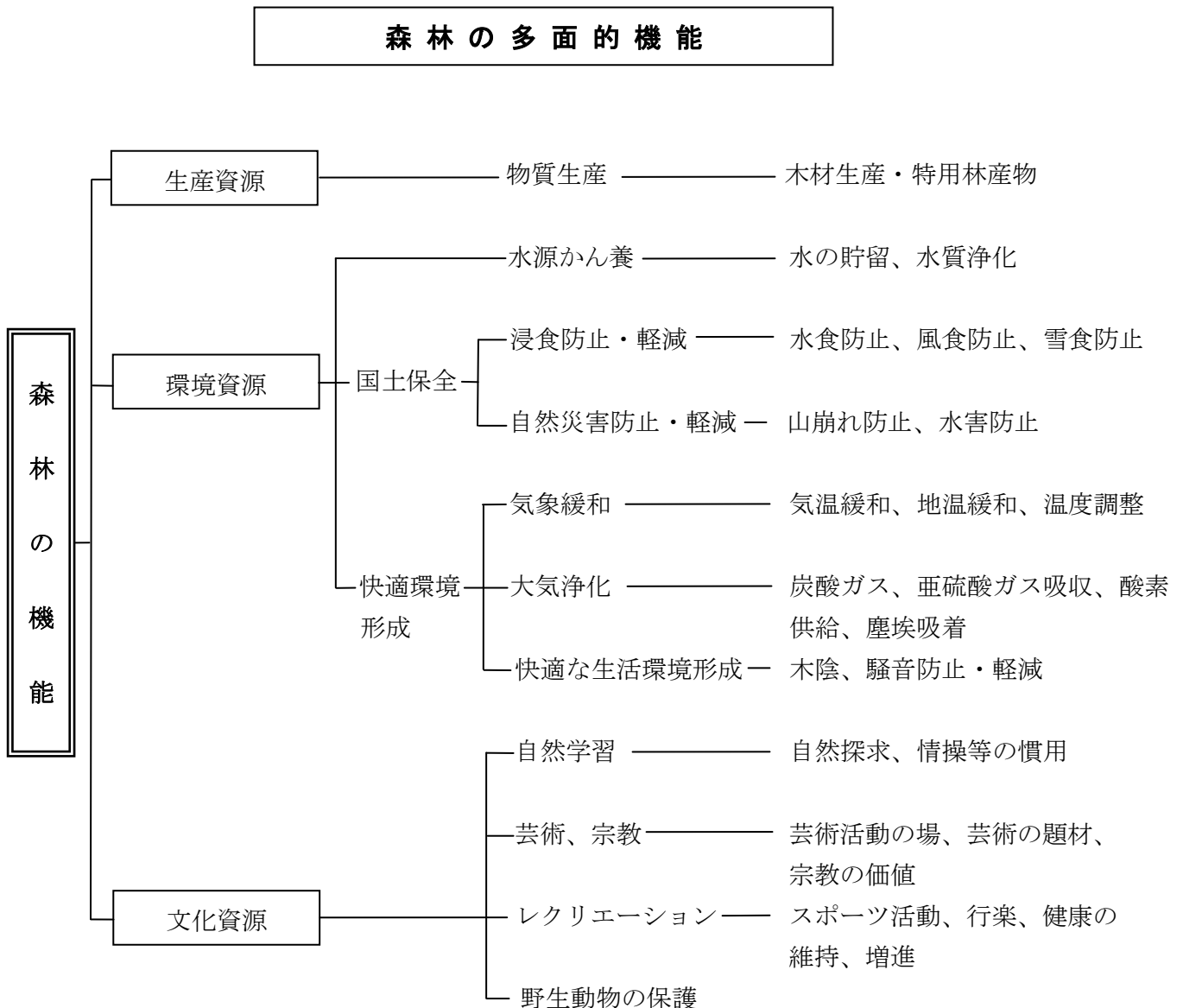
資料：全国は、林野庁「森林・林業統計要覧」より

5 森林・林業の役割

- ◇ 国土の7割を占める森林は、水源かん養、国土保全等の公益的機能、木材生産等国民生活に極めて大きな貢献をしており、本県の森林は、首都圏の水源地としての役割も担っている。

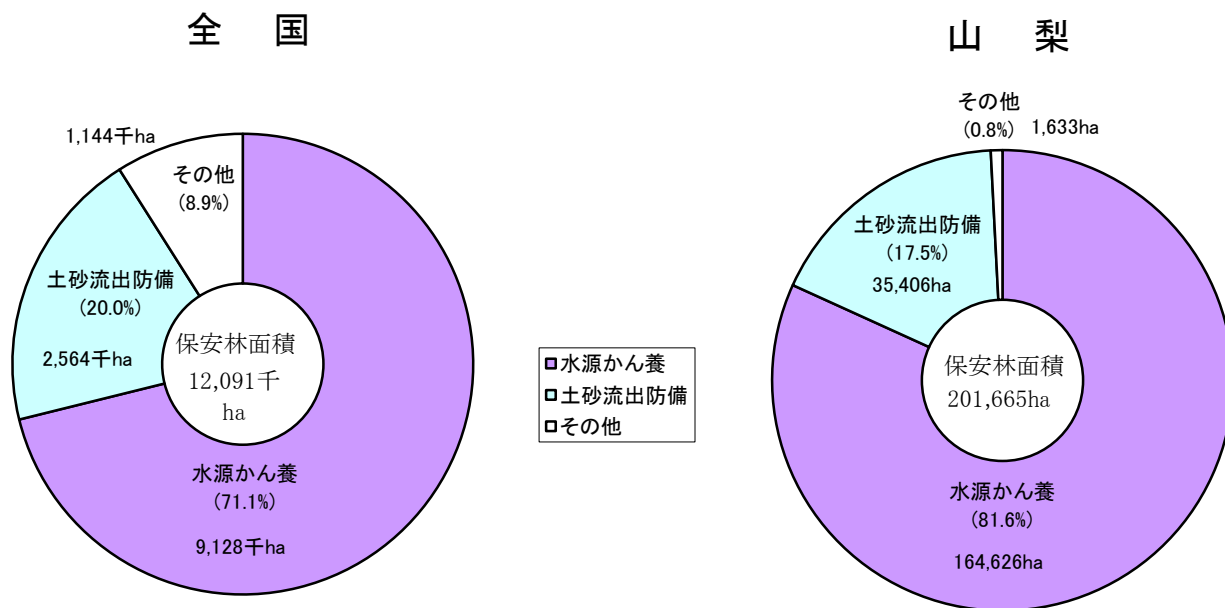
- ◇ 保安林は、国民の暮らしを守るために、特に重要な森林について、国や都道府県が指定した森林のことで、その目的に応じて17の種類に分けて指定されている。

- ◇ 山梨県では、このうち8種類の保安林が指定され、保安林面積は約20万ha（全森林の58%）である。四方を山々に囲まれ、古くから洪水等の災害が多かったため、保安林の指定率では、全国5位である。



◇森林の公益的利用

保安林の種別構成割合



その他内訳

(0.5)	59	土崩	14	(0.0)	(1.0)	125	干害	13	(0.0)	(0.0)	0	防火	26	(0.0)
(0.1)	16	飛砂防備	-		(0.0)	0	防雪	-		(0.5)	60	魚つき	-	
(0.4)	57	防風	158	(0.1)	(0.5)	62	防霧	-		(0.0)	1	航行	-	
(0.0)	1	水害	112	(0.1)	(0.1)	19	なだれ	-		(5.4)	699	保健	1,070	(0.5)
(0.1)	14	潮害	-		(0.0)	2	落石	3	(0.0)	(0.2)	28	風致	237	(0.1)

(注) 全国は平成25年3月31日現在(資料:2014「森林・林業統計要覧」(林野庁編))、
 県は平成26年3月31日現在の数値である。

全国の内訳面積は延べ面積のため、合計面積とは一致しない。

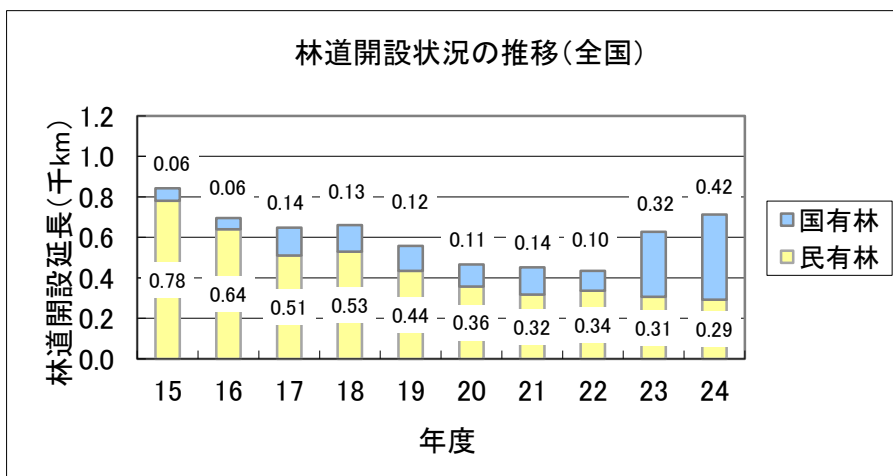
その他内訳の左側全国(単位:千ha)、右側山梨(単位:ha)

◇林道整備の目標と現況

林道整備目標と現況

全 国		山 梨
261.0 千km	基本計画目標 [全国48年 山梨35年]	2,378 km
137.8 千km	現況延長 [全国24年度末 山梨25年度末]	2,071 km
5.4 m	現在林道密度 (ha当たり)	6.0 m

資料:全国は、2014「森林・林業統計要覧」(林野庁編)
現況延長及び現在林道密度は、林道のうちの自動車道延長で算出



資料:「平成26年度版森林・林業白書」参考付表(林野庁編)

